

《提案内容》

SDGs実現に向けた推進体制について、すべてのゴールやターゲット、あらゆるフェーズ（意見・情報収集、計画策定、事業立案・実施、評価）においてジェンダーの視点を取り入れる旨を明記いただきたい。

ジェンダー平等は、すべての目標とターゲットに影響を与えるクロスカutting・イシューである

ジェンダー平等について、目標5に留まらず、下記のとおり全体を通底した課題と位置付けられている。

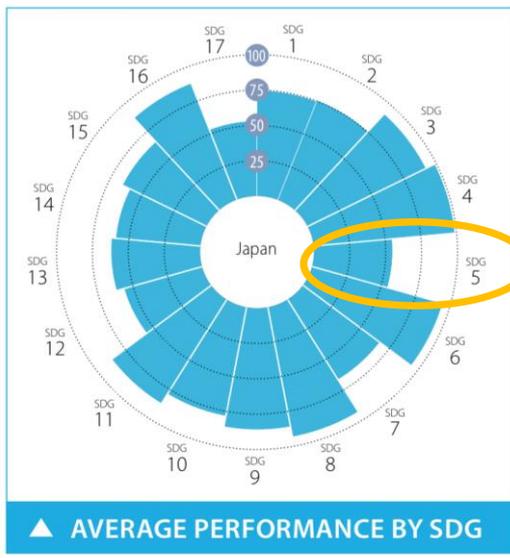
- ① 独立した目標 → 目標5
- ② 前文、宣言におけるジェンダー平等および女性のエンパワメントの重要性の強調
- ③ ジェンダー平等にとって重要な人権、リプロダクティブヘルス・ライツなどへの言及
- ④ 目標5以外分野での言及

「ジェンダー平等の実現と女性・女児の能力強化は、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである」
持続可能な開発のための2030アジェンダ

「ジェンダーの平等は、それ自体が目標であるばかりでなく、貧困の削減、持続可能な開発の促進、グッド・ガバナンスの構築という課題に取り組むための前提条件となるものである」
コフィー・アナン元国際連合事務総長

「SDGsにおけるジェンダー指標は目標5が中心だが、他分野にまたがっており、全ターゲットの34%、230 Indicatorのうち32%をジェンダー指標が占める。女性の雇用への影響など副次的な効果の測定も踏まえ、評価手法の革新をしなければ適切な評価ができない」
引用：一般財団法人CSOネットワークHP「3/15~17、国際会議『誰も取り残さない：衡平かつジェンダーの視点でSDGsを評価する』（ニューヨーク、フォード財団・UNICEF本部）に参加しました」

日本においてジェンダー平等は伸び代の大きいレバレッジ・ポイントである



ジェンダー・ギャップ指数 (2017)
主要国の順位

順位	国名	値
1	アイスランド	0.878
2	ノルウェー	0.830
3	フィンランド	0.823
4	ルワンダ	0.822
5	スウェーデン	0.816
6	ニカラグア	0.814
7	スロベニア	0.805
8	アイルランド	0.794
9	ニュージーランド	0.791
10	フィリピン	0.790
11	フランス	0.778
12	ドイツ	0.778
15	英国	0.770
16	カナダ	0.769
49	アメリカ	0.718
71	ロシア	0.696
82	イタリア	0.692
100	中国	0.674
114	日本	0.657
118	韓国	0.650

「SDGsには目標を実現するための『梃子(てこ)の力点』、英語では『レバレッジ・ポイント』というものが存在します。...目標間の相互連関とレバレッジ・ポイントの観点ほど大切なものはありません。...日本におけるレバレッジ・ポイントの一つは目標5のジェンダー平等と女性のエンパワメントであると考えています」
引用：SDGパートナーズ有
限会社HP
「『レバレッジポイント(梃子の力点)理論』と社会課題の相互連関」

なぜジェンダー評価・ジェンダー統計の重要か

データと統計は、ジェンダー平等と女性のエンパワメントを実現するためのエビデンスに基づく政策を立案し、そのインパクトを評価し、説明責任を促進するために欠かせないツールである。
■包摂性：ジェンダー平等の実現及びジェンダーの視点の主流化のためには、ジェンダー統計の充実が極めて重要であり、SDGsの実施において可能な限り男女別データを把握するよう努める。
引用：日本SDGs実施指針
■ジェンダー関係が不平等な社会では、一見、「中立的」な開発政策や施策、事業であっても男女それぞれに異なる影響を及ぼす可能性がある。そのため、すべての開発政策、施策、事業の計画・実施・モニタリング・評価のあらゆる段階で、社会における男性と女性の社会的な役割の違いや力関係によって生じる課題やニーズを踏まえ、ジェンダー平等の視点を組み込んでいくことが必要。引用：JICA HP「ジェンダーと開発」